



<施設の概要>

設置場所: 千葉県野田市山崎下柳418
 計画機関: 住宅・都市整備公団千葉地域支社
 設計者: 上部工・下部工(株)日建設計
 四阿(株)アトリエ74
 建築都市計画研究所
 + 川崎建築設計事務所
 施工者: 上部工・下部工岩倉建設(株) 期工事
 升川建設(株) 期工事
 四阿/岩倉建設(株)

橋梁形式: 上部工/連続木桁橋
 下部工/橋脚 方杖付き木組橋脚
 基礎形式: 中掘式PHC杭
 四阿部構造: 木造2階建・ブレース構造
 橋長: 193.5m(四阿を含む)
 幅員: 6.0m・4.0m(高欄内側)
 橋面積: 1185.4m²(四阿を含む)
 桁高: 4.891m
 施工期間: 平成8年7月～平成10年3月

電球色を基調とした照明環境が ぬくもりのある木製歩道橋を演出

A warm wooden bridge image is kept with basic lamp light illumination

新たな住宅地に架かる街のシンボル
日本一の橋面積をもつ
純粋木製歩道橋

Town's symbol built in New Town
The area of all-wooden pedestrian bridge is the widest in Japan

東武野田線梅郷駅周辺に広がる「野田瑞季の街」では、土地区画整理事業による街づくりが進められています。その一つとして完成した「とんとんみずき橋」は、「野田瑞季の街」を包み込むように南北に広がる緑地を分断する幹線道路に架けられた木製の人道橋で、地域のモニュメントとしての役割を果たすだけでなく、住民が憩い、交流する場としても賑わいを見せています。

「とんとんみずき橋」は、昭和3年に江戸川に架けられた旧野田橋をイメージして作られました。日本一の橋面積をもつ木橋内の照明は、歩行者の安全性を確保した上で、快適性や地域環境との調和に配慮した、フットライトの間接照明による配光としています。器具は露出を避け高欄下段内に埋め込むことで、木が醸し出す味わいを損なうことなく、橋上の演出効果を高めています。光源にはコンパクト蛍光灯の電球色を使用、長時間の点灯にも省エネで対処する一方、フロストガラスを通した光が、柔らかな暖かみをもって木の質感を表現しています。その他、旧野田橋の門柱灯をイメージしたデザイン器具や、旧梅郷村役場をモチーフにした四阿に設置されたブラケットなど、光源にはすべてコンパクト蛍光灯電球色を使用し、統一性をもった光色のライティングで、郷土色を強調したモニュメントとしての存在感を高めています。また、3箇所の橋脚内に投光器を設置し、ライトアップ(中央部)とライトダウン(両端部)で、橋脚のフレームを見せる演出照明を行っています。

照明コンセプト

Lighting design concept

柔らかな暖かみのある光で木製の人道橋の木の質を表現し、夜間空間に導線を表出。橋脚のライトアップは上空への光漏れの発生がなく、周辺地域への影響のないよう配慮した。



橋脚ライトアップ ライトアップ(手前)とライトダウン(奥)、異なる照明手法を用いてライトアップを行う
Light-up of bridge pier



橋脚ライトアップ
Light-up of bridge pier
橋脚内で完結するライトアップで、上空への光もれは発生しない



フットライト
Footlights
高欄下段内に器具を埋め込む



橋上の照明環境 フットライト(電球色)による光の帯が橋上に連なり、温かみのある照明環境を創造する
Illumination effect on the bridge



上空から見たとんとんみずき橋
(写真提供: 朝日新聞社)
Aerial view of "Ton-ton" bridge



ゲート付近景観
View near the gate
旧野田橋の門柱灯をイメージしたデザイン器具が橋上へと導く

主要照明器具一覧表

設置場所	器具	型名	数量	ランプ
高欄	フットライト	特注器具	120	27Wユーライン&コンパクト形蛍光灯ランプ/電球色
四阿	ブラケット	特注器具	8	27Wユーライン&コンパクト形蛍光灯ランプ/電球色
橋脚	ライトアップ器具	特注器具	6	70Wネオアーク 小形高演色メタルハライドランプ)
ゲート上	デザイン門柱灯	特注器具	4	27Wユーライン&コンパクト形蛍光灯ランプ/電球色)